

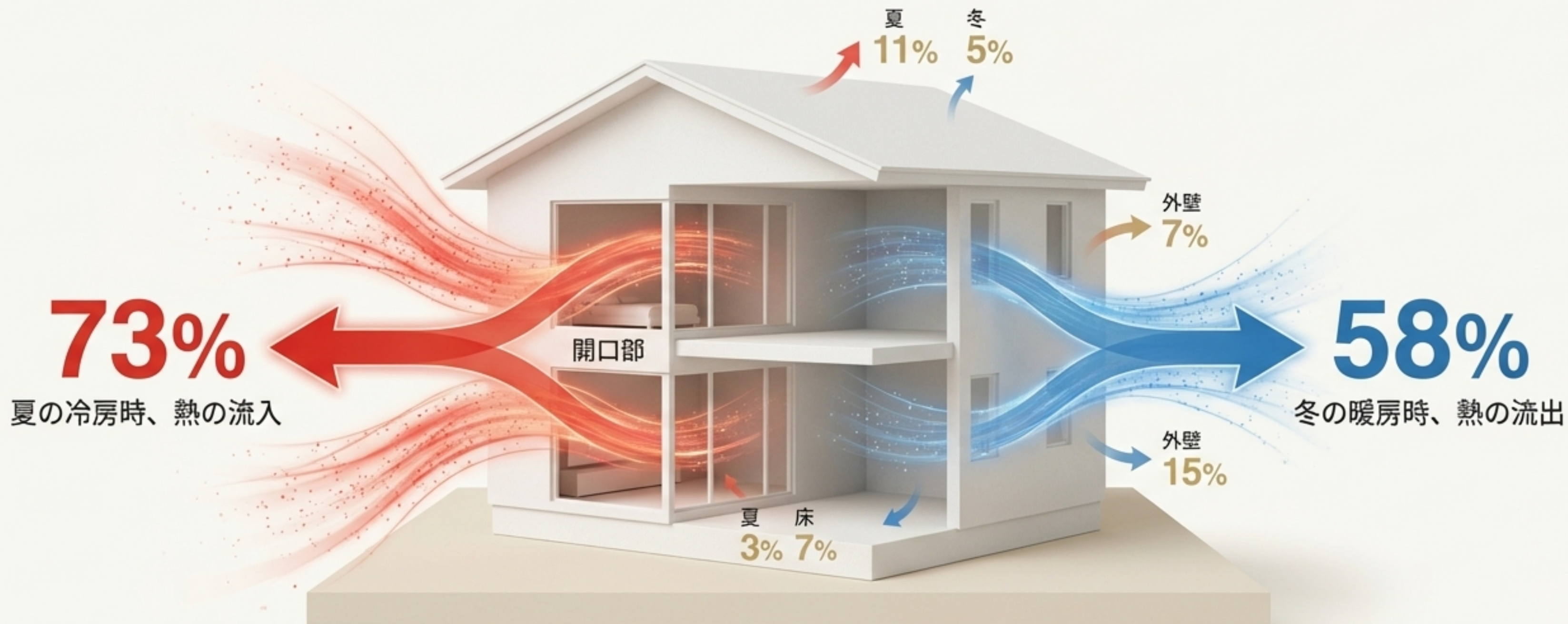
未来の住まいへの、賢い投資

先進的窓リノベ2026事業 戦略的活用ブリーフィング



環境省

なぜ、すべての鍵は「窓」にあるのか？



住宅のエネルギー効率を考える上で、窓は最大の弱点であり、最大の改善点です。

日本の住宅が抱える、見過ごされた現実。

日本の住宅の約7割

未だに断熱性の低い「単板ガラス」の窓に依存しています。

これは、エネルギー価格高騰とカーボンニュートラル社会の実現において、大きな課題です。

国の答え：先進的窓リノベ2026事業

正式名称：断熱窓への改修促進等による住宅の省エネ・省CO2加速化支援事業



予算: 1,125億円



目的: 高性能な断熱窓への改修を支援し、住宅の省エネ化を加速させる。



対象: 既存住宅の所有者（個人・法人、賃貸オーナーも含む）



2026年、ルールが変わる。戦略の再構築が必須に。

先進的窓リノベ2025	先進的窓リノベ2026
事業予算: 1,350億円	事業予算: 1,125億円 ↓
補助上限額: 200万円 / 戸	補助上限額: 100万円 / 戸 半減
最低申請額: 2万円	最低申請額: 5万円 ↑

予算縮小と上限半減により、より戦略的な計画と迅速な行動が求められます。

補助対象となる3つの主要な改修工事

内窓設置



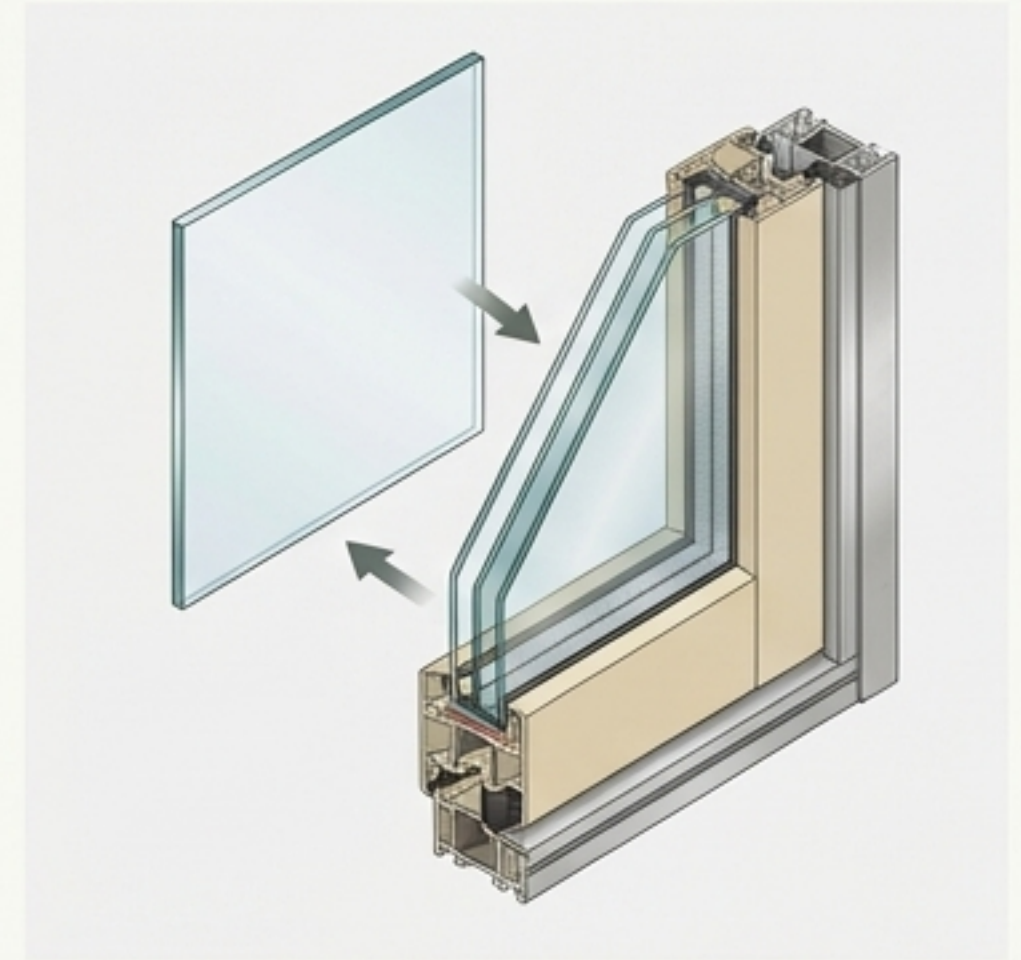
既存の窓の内側に新たな窓を設置。断熱・防音性に優れ、費用対効果が高い。

外窓交換



既存のサッシごと撤去、または上からカバーして新しい窓に交換。

ガラス交換



既存のサッシはそのままに、ガラスのみを高性能な複層ガラス等に交換。

※ドア交換は、窓の改修と同一契約の場合のみ対象となります。

補助額を決定する、最も重要な要素：「性能」

性能区分と熱貫流率（Uw値）



数値が低いほど高性能。
2026年事業では、中高層集合住宅の「Bグレード特例」は廃止されました。
すべての住宅でAグレード以上の性能が必須です。

補助額の算出方法：性能 × サイズ × 工法

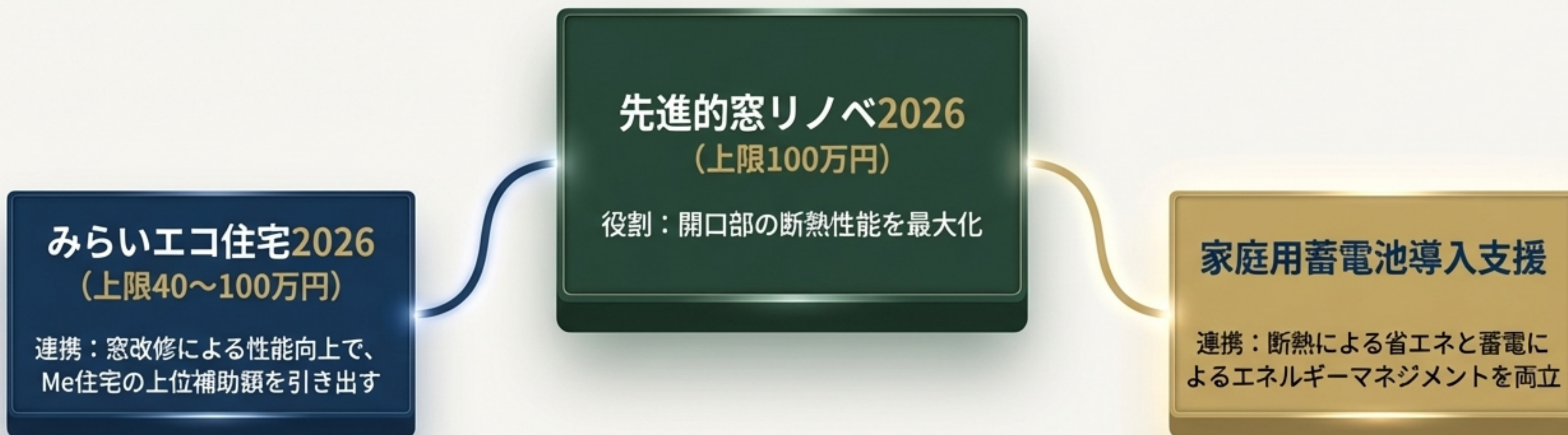
補助額の例：内窓設置（戸建住宅）

性能\サイズ	大（L）	中（M）	小（S）
P（SS）	¥106,000	¥72,000	¥46,000
S	¥65,000	¥44,000	¥28,000
A	¥26,000	¥18,000	¥12,000

より高い性能グレードの製品を選ぶことで、自己負担額が逆転するケースもあります。

※金額は2025年度事業のものです。2026年度の正式発表後、金額が改定される可能性があります。あくまで目安としてご参照ください。

補助金を最大化する「ワンストップ申請」という戦略



これらは別々の制度ではありません。「住宅省エネ2026キャンペーン」として連携しています。
窓リノベは、他の大型補助金のトリガーとなる最も重要な工事です。

申請プロセスと成功のための重要ポイント



施主 (Homeowner)

登録事業者を選定し、工事請負契約を締結

MUST USE

施主自身では申請できません。必ず登録事業者 に依頼する必要があります。



登録事業者 (Registered Business)

工事完了後、施主に代わり交付申請を代行

KEY TO SUCCESS

交付申請の予約 を活用し、早期に予算を確保することが成功の鍵です。



国 (Government)

審査後、事業者に補助金を交付
→ 事業者から施主へ還元



一つの窓から、より良い社会へ。

窓の断熱改修は、**家計**や**快適性の向上**に留まりません。

「ウェルビーイング/高い生活の質」の実現、
2050年ネット・ゼロ目標の達成、
そして持続可能な社会の構築に
直接貢献する行動です。

2026年、好機はより短く、戦略はより深く。

- ✓ 早期行動：縮小された予算は、早期に上限に達する可能性が高い。今すぐ計画を開始する。
- ✓ 戦略的選択：補助上限100万円を念頭に、内窓設置や高性能グレード製品を組み合わせ、費用対効果を最大化する。
- ✓ 複合的活用：「みらいエコ住宅」等との連携を前提に計画を立て、補助額の総額を最大化する。

賢い選択と迅速な行動が、未来の住まいと暮らしの価値を最大化します。